

3) 稚魚ネット採集標本からみた 2000 年産アユのふ化日組成

田中秀具・吉岡 剛・鈴木隆夫・大山明彦・酒井明久

【目的】湖産アユのふ化時期を把握し、従来の産卵調査・ヒウオ生息状況調査による資源の量的把握に詳細な検討材料を提供し、よりきめの細かい漁況予測を実現する。

【方法】2000 年 9 月 28 日～12 月 20 日の間に 10 回の稚魚ネット（通称、ヒウオ曳網）による仔稚アユ採集調査を行い、湖内各地で採集した仔稚アユ標本 979 尾について耳石日周輪を読みとり、各個体のふ化日を推定した。

【結果および考察】

①標本から推定された 2000 年のアユのふ化期間は 9 月 9 日～11 月 8 日で、ふ化日組成は 9 月中旬前半に小型のピーク（第 1 ピーク）、9 月下旬～10 月上旬に大型のピーク（第 2 ピーク）のある 2 峰型であった（図 1.）。

② 2000 年の人工河川からの流下仔アユ数の経日変化を図 2. に示す。図 2. のパターンおよび、アユの産卵期のうち 9 月 10 日頃までが河川の異常渇水（夏季の降雨不足）で、産卵ができる状況ではなかったことから、第 1 ピークは人工河川からの流下仔アユによるものと思われる。

③産卵期間中河川に通水のあった 1999 年（図 3.）と比較すると、2000 年が産卵初期に渇水であったことから、1999 年の 2 つのピークの 9 月下旬のピーク相当分（9 月 21 日～9 月 30 日頃）が後へずれ、10 月上旬のピークと合わさって、結果として 1999 年の第 2 ピーク（10 月 5 日～10 日頃）より前に 2000 年の第 2 ピーク（9 月 26 日～10 月 5 日頃）が形成されたものと思われる。

④以上のことから、2000 年のアユの産卵期間のうち初期には産卵河川の渇水があり、天然の産卵は制限されたが、その時期に人工河川を稼働し、仔アユを流下させることにより、量的には不安は残るものの、一定の 9 月のピークは出現させることが出来たものと評価できる。

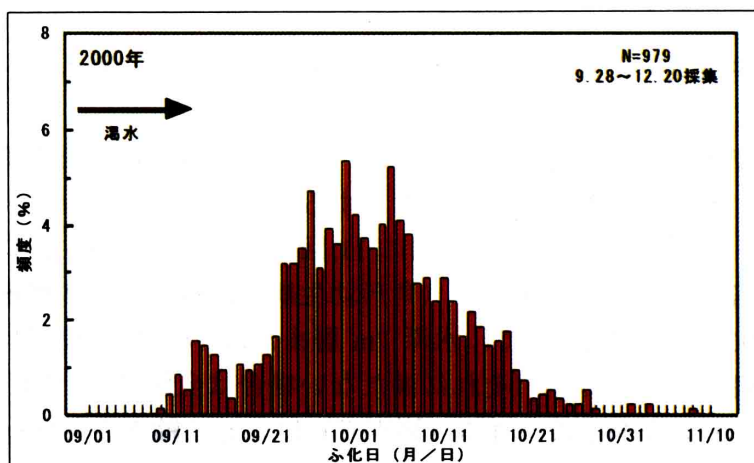


図1. 2000年稚魚ネット採集アユのふ化日組成

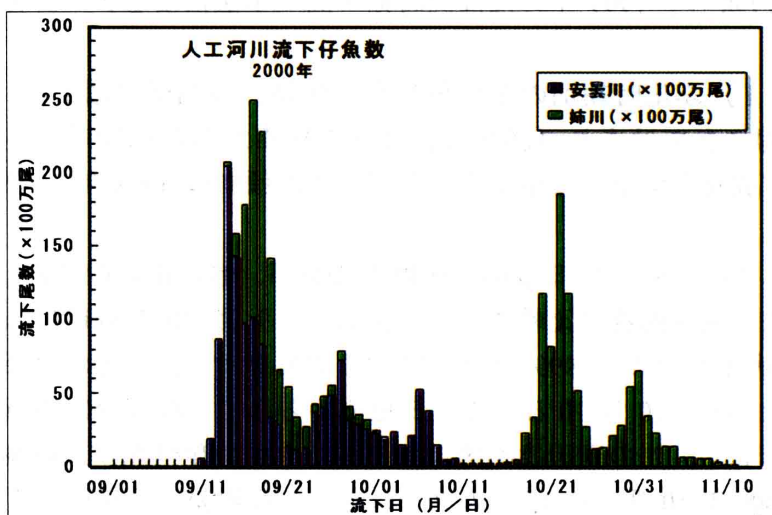


図2. 人工河川流下仔魚の経日変化 (2000年) *

* 図2. は滋賀県水産振興協会資料に基づきグラフ化したものである

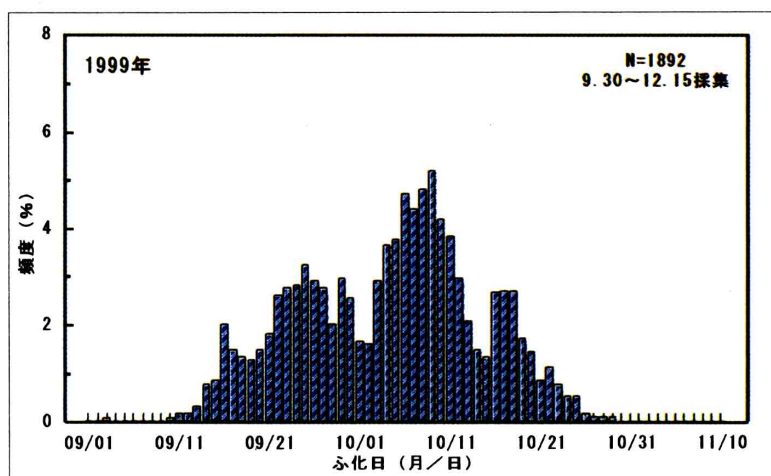


図3. 1999年稚魚ネット採集アユのふ化日組成